

令和7年度 かねやま未来会議

町の施策に関する意見書回答まとめ

令和7年6月 総合政策課 政策推進係

かねやま未来会議委員 16 名(20 代~70 代)から、町の施策に関する意見書の提出があり、以下のとおりまとめました。意見は一部要約しています。氏名については、非公表とさせていただきます。

◎第5次総合発展計画一部改訂案について

1. 地域振興・雇用安定プロジェクト

●基本目標:わが町に安定した雇用を創出する。

- ・農業の雇用促進について、経済施策の前に、新規就農者数をいかにして増やすか。稼ぐ農業も魅力的だが、農業の安定した雇用(不作時の対策)を充実してほしい。
- ・町民の方々の意見を幅広く取り入れながら、様々な支援事業や推進事業に対して、日々一生懸命取り組んでいると思う。
- ・町が目指したい方向性などを広報やホームページ、町民との話し合いの機会を設けて情報発信に努めていると思うが、「いろんなことに取り組んでいることはわかるが、具体的にこうありたいというものが見えない」と町民から話を聞く。町の取り組みと町民の理解度に隔たりがあるように感じ、せっかく一生懸命取り組んでいるのにもったいないと思うことがある。
- ・防災タブレットに、例えばハローワークの求人票みたいな、アクセスすればすぐにわかる町が求める人材・事業像みたいなサイトがあっても良い。
- ・農業に関して、指導者が独立できるまでついてきてくれるか。何名以上の独立者がいたらなど、指導者に利点を設ける。
- ・米価の高騰により、より一層農家の重要性が増している。町の事業で農家の担い手が増えることを期待する。
- ・未来の農業を担う可能性のある子どもが、農業に触れる機会が限られていると思う。子どもの置かれている環境に左右される。農業の雇用機会の創出つなげ、可能性を増やすのであれば、農業に触れる機会を学校教育で取り入れることも必要だと考える。

- ・町の資源の活用は良いこと。
- ・農業や林業の魅力は感じるが、就業を支援するシステムも必要になってくると思う。
- ・園芸・農業・畜産・林業で働ける担い手を育てることが最初の一步なのでは。
- ・若い人が興味を持ち、やってみたいと思える工夫をしていかなければ、安定した雇用づくりはできないのでは。
- ・今後、専門学校や大学に入学する若い人たちに、奨学金を出すとか。町に残ってくれるのであれば、借りたお金は免除されるとか。子どもたちの負担にならないように工夫していただきたい。
- ・方向性は良い。
- ・人口減少のため、他県に通学する町出身者の進学先の学校に町の雇用をアピールしていくことが大事。
- ・働き方で兼業や複合経営を考えても良いのでは。
- ・これまで農業や林業等、町の産業を守ってきた方々が、これまで以上に安定した収入を得て、自信を持って継続していくために重要な事業。また、グリーンバレー神室やイベントのさらなる魅力化にも期待。
- ・屋外遊び用品(ストライダー等)の貸出、カムロTシャツなど非常に魅力的。
- ・地域産業を基点とした安定した雇用はとてもよいと思う。
- ・職を求めている方々に、雇用安定プロジェクトのPRを駆使すること。
- ・消防団の負担軽減について検討を。

2. 移住・定住推進プロジェクト

●基本目標:新しいつながりと定着、住んで良かったと思えるまち

- ・考え方や方向性は良いが、そもそも定住するうえでの商業施設とか医療機関を充実させるべきではないか。
- ・定住促進について、街なか公営住宅のあり方。家賃問題でいずれ街なか公営住宅が空き家にならないか。
- ・高速道路の整備に伴い、様々な場所から金山に気

軽に短時間でアクセスできるようになり、交流人口・関係人口の拡大にも一生懸命取り組まれていると感じている。

・周りに高規格道路のおかげもあって、交通の便がより楽になったこともあり、職場が金山や新庄だけでなく、東根などにアパートを借りて通う人の話をよく聞くようになった。

・家族兄弟と暮らしているけど、兄弟の結婚・出産に伴い、家が手狭になってきたので一人暮らしを始めたり、結婚前提に付き合っている方々が2人で過ごしてみたいので互いに実家を離れるケースがある。その際の住居地に、町外を選ばれてしまうのは、そもそも町内に単身者が住む場所がないからだと思う。

・金山にアパートがあり、航空電子さんの従業員さんが住むことができれば、住民税であったり、地域でのお金の動きが増えたりとメリットはあると思う。

・町のおかげもあり、地域おこし協力隊や金山校への町外からの入学生もあり、住居に対する需要は増えている。金山の景観に合ったアパートの需要や必要性は高まっていると感じる。

・人が増えれば生活の需要も高まり、新たな雇用も生まれると思う。

・シェネスハイム金山のアパート化を検討してはどうか。

・車を運転しなくてもいいように、公共交通機関との連携強化。

・広告の強化。建て替え・リフォームなどで企業の優遇措置を。

・金山の魅力を知ってもらい、様々な体験を通して移住者が増えることは大変ありがたいことだと感じる。新しい風が町に舞い込んでくることは活気があってよい。

・移住者は少なからずいるが、大きな人口のプラスになるかと言われると考えてしまう。今住んでいる人が、住み続けられるように考えていくことは、現実に沿っている。そのうえで、雇用の充実、金山で働ける職種の幅を拡大していくことが必要だと思う。

・様々な夢をもった子どもたちが、金山でもその夢を実現できると思えることが定住につながると思う。

・充実した内容である。

・定住するには、生活の利便性が重要だと思う。

・空き家の活用は、とても良い取り組みだと思う。

誰も住んでいない家は悪くなり、いずれは壊れてしまうので活用できる場所はリフォーム等を行い、誰かが使ってほしい。

・景観に配慮した良質な住まいの提案とあるが、空き家の活用や移住するための生活できる住まいの提案をしていくべき。

・高齢者が増加し、少数でも住む家族が増えていくので、若い人に子育てが落ち着いても住みやすい町と思ってくれる環境づくりに取り組むべき。

・住める空き家などを活用し、高齢者のUターンなどを考え、リフォーム支援を継続する。

・空き家バンクには築年数の長い物件も多く、移住等してもリフォームが必要になる場合も多く感じる。町民が長く住み続けるにも改築するタイミングはあると思うので、今の住宅リフォーム支援は重要であり、可能であれば今以上の支援があってもよいように思う。

・町民として移住者が興味を持つ、または実際に移住してくれる魅力的な町であることは非常にうれしい。出る残る関係なく、小・中学校にいるうちに、金山の魅力を子どもたちに存分に触れてほしい。

・町の優位性を活用した基本的な考え方は良い。

・住む環境整備の点で、弱い点があると思うので対応が必要。

・消防団員の人員不足に課題。

・災害用資材置き場の設置(町の中心部)に取り組むべき。

3. 出会い・結婚・出産・子育てプロジェクト

●基本目標:出会い・結婚・出産・子育ての希望がかなう、誰もが生きがいをもてるまち

・子育て支援は、手当てが充実しており、さらなる発展につなげてもらいたい。子育て以前の出生率が低い。対策は？

- ・幅広くいろんなことに取り組んでいると感じる。
- ・取り組み自体に大きな不満はないが、特に魅力を感じる部分が見えないので、結婚する際は町外にという選択肢は出てくる。
- ・結婚して町内に住んで出産・子育てし続けた場合の祝い金を他市町村の倍以上出すなど、わかりやすい特典があっても良い。
- ・進学・就職に次いで部活動の話をよく聞く。学校の働き方改革により、子どものスポーツに対する環境が変わりつつあり、不安に感じている保護者が多い。
- ・現状維持
- ・子育てに関して、様々な支援があり、一親として助けてもらっていると感じる。
- ・子どもが安心して遊ぶ場所が少ない。特に土日の遊び場がない。新しい建物は難しいにしても、土日でも森図書で集まったりできるような現存施設でできるようなことを検討してほしい。
- ・これからの時代に合わせて、学校等でメディアリテラシーについての教育の強化、早期化が必要になると思う。
- ・子育てについてのサポートは充実している。
- ・子育ての経済支援は良いことだと思う。出産してから高校生になるまで幅広く支援に入ってくれるし、子育てに関する事業が多くあり、力を入れていることがわかる。
- ・小中学生の中で、不登校の子どもが多くなっているのではないかと。どんな理由でいけないのか。相談できる所はないのか。学校以外で勉強できる場所を確保するのはどうか。
- ・町の子育て支援事業は、良いと思う。子育てと仕事の両立できる町としてアピールできれば良いと思う。
- ・出会いの場づくりや結婚しても生活できる未来を考えることができるサポートに取り組むべき。
- ・学びの場である学校校舎の老朽化が課題。
- ・教育や医療が整っていることが重要。
- ・子育てにかかる費用への支援金等、最近では給食費の無償化、大変ありがたい。金山らしい時間を過ごせる「めぐたま」も非常に魅力的である。

- ・小学生程度の子どもたちが集まって遊べる場所が少ない。公園も点在しているが、遊具の老朽化が気になる場所や、遊具の選択肢も少ない。特に雨天時は町外に出ざるをえない。
- ・学びとしてのデジタル活用、ネット活用に必要な知識の学習(危険性も含め)を今後も強化は必須であるし推進願いたい。アナログ離れを防ぐための「紙と鉛筆」、「読み聞かせ」などの学び、学習法の大切さも継続して伝えてほしい。
- ・町全体で役割を連携させる考え方はとても良い。
- ・出会いの場づくりを考える場合、新庄市及び最上地域の連携事業が大事だと思う。

4. 地域連携・生涯活躍プロジェクト

●基本目標:ひとが集う持続可能なまち

- ・防災・減災対策について、地域の防災を担う消防団団員数が減少傾向。若手離れにある。
- ・例えば消防団。先日行われたアンケートで、操法大会の廃止を求める声が過半数を超えた。実際に色々な消防団員に話を聞いてみると、操法大会の必要性は感じないけど、消防団は必要であり、また、操法技術の必要性はあるので現在の競技会という形ではなく、講習会を設けて欲しいという声があった。また今回大隊長を務めさせて頂き、それに伴う手当を頂くことにはなりそうですが、個人的には大隊長は大演習の時にしか必要とされない役職であり、部長や本部付きの方々のご負担の方が圧倒的に多いと感じているので、部長や本部付きの方々の負担を減らせる努力をすると共に、働いた分だけ努力した分だけ、それに見合った報酬が与えられても良いと感じた。
- ・消防団以外でも役場の職員、地域の住民の方が地域の活性化の為に実に献身的で積極的、協力的であるとを感じる事も多い。すべきことが多いのも事実だが、形式的な部分で省力しても構わない部分などを排除して、一人一人の負担を減らしてほしい。また、頑張っている方々がその頑張りに応じたモノが与えられる町であってほしいと願っている。
- ・デジタルの力でその時代に合った行政運営や地域連携は重要だと考える。

・町職員だけでなく、地域の事業所や地域住民も一緒になり、その時代の波に乗っていく必要がある。そのため必要な基礎知識や注意すべきことなどが理解できるような学習の機会の提供や、日頃から事業所との連携で「デジタル」に触れる機会を増やすなど、地域全体がデジタルに慣れていくような取り組みが必要だと感じる。

・きめ細かく配慮した内容だと思う。

・人口減少により、地域のコミュニティの継続が難しくなってくることを想定しなくてはいけない。

・若い人たちが町に住み続けたいと思う工夫をしていないと思う。どうすれば若者が離れていかないか学生を対象に話を聞く場を設けてはどうか。

・人とのつながりが大切。住んでいる住民の助け合いで、防災・減災につながると思う。

・若い人、働き盛り世代、子育て世帯、高齢者の困りごとを今後、どのように助け合いしていくかが課題。

・いくつになっても健康であること、誰かと繋がること、役割をもつこと。住民それぞれが意識することが地域づくりであり町の魅力に繋がると思う。非常に重要なプロジェクトであると感じる。

・町の役職、地域の役職について、担い手が偏り負担になっているケースが多く見受けられる。住民主体を進めるためには負担の分散化も重要。役職を持たない人も、何かしらサポートをする意識や役割を持つようになってほしい。

・DXについて、自分にはわからないからと諦め、わかる人だけで…若者だけ…という考えが増えないよう、高齢者も教える側になるなど活躍の機会に繋がってほしい。

・ウォーキングコースに健康遊具などがあるとよい。

・子どもから高齢者まで参加できるウォーキング、町の子どもの活躍機会となるクロカンスキー等、スポーツ推進事業は非常に魅力的で今後も継続を願う。

・「つながり、安心、希望」が持てるまちづくりができたら良いと思う。

・人口減少がもたらすマイナス面が多方面で表面化することに対する方策、対応が重要。

・コロナ禍後に町全体での事業が無くなっているの、町全体で事業を行ってほしい。

5. その他まちづくりに関すること

・都会からきた人との交流の場を希望者にPR強化してほしい。

・移動販売の強化をすべき。

・ゴミ袋に名前を書くことを廃止してほしい。

・近年、地域に残る建物について、その地域における役割や価値が十分に把握・検討されることなく、解体が進められる事例が散見される。その結果、長年にわたり地域の風景を形作ってきた建物が姿を消し、景観の連続性や地域固有の魅力が失われつつある。老朽化のみを理由とした安易な解体ではなく、建物が持つ歴史的・文化的・景観的価値を的確に評価し、保存・改修・再活用の可能性を優先的に検討する視点が必要であると考えます。

公共施設や空き家の用途変更・引き渡しにあたっては、地域住民や関係団体との連携を図り、将来的な利活用計画を明確にすることで、建物の「命」をつなぎ、地域景観の維持・再生に大きく貢献できると考える。

建物を地域の記憶や資源として取れる視点が、これからのまちづくりにおいて不可欠である。既存の資源を活用する方針への転換を検討されてはどうか。

・(景観施策等に関する)まちづくりが始まって40年が経過し、当初から係わってきた世代は、高齢化を迎えている。その一方で、次世代への継承や住民参加の意識が全体として低下している印象が否めない。物価の上昇や所得の伸び悩みによる生活の不安定さから、まちづくりへの関心や参加が難しくなっている現実は理解している。しかし、たとえ歩みがゆっくりだとしても、継続することこそ意義があり、その積み重ねの先に町の未来が見えてくる。だからこそ、まちづくり、景観づくりの歩みを止めてはならないと思う。

原点に立ち返り、金山町の景観が持つ力とその意義を改めて認識いただくとともに、町の理念や想いを次世代にしっかりと引き継いでいただきたい。そ

して、より美しく誇れる町の実現に向け、持続可能で魅力ある未来の金山町を築くための取り組みにおいて、町民を力強く導いてくださるようお願いする。

- ・町内企業参加のウォーキング企画「かねやまステップジャンボ」は大変良い取り組み。

- ・各家庭へのタブレットの配布は、良い取り組みだとと思うが、災害が発生した場合、Wi-Fi が使えないので緊急時はどうなのか。

- ・船橋アンデルセン公園のような憩いの場(遊具・公園・広場・動物とのふれあい)があれば、休日等に他地域から家族連れが訪れて賑わうのでは。

- ・商業施設が少ない。(スーパー、ドラッグストア、居酒屋など)

- ・町民が楽しめるゴルフ場があると良い。

- ・体育センターのトイレが和式なので洋式にすてほしい。小さい子が大変。

- ・室内で遊べる広い施設があると良い。

- ・金山健康ふれあいスポーツクラブについて、それぞれのスポーツによって必要な道具の確保や施設(体育館・グラウンド環境)を充実させて欲しい。

- ・現状の課題解決をすることは、大変なことだと思う。少子化、人口減少は、個人の収入減による不安があるからだと思う。収入を増やすことは、大変難しいことでもあるので、「定収入でも暮らせるまちづくり」を推進してはどうか。

- ・町の高齢化率の上昇、温暖化の影響により、施設活用のクーリングシェルターやウォーターサーバー設置など配慮がなされており効果的であったように思う。同様の観点に加え、災害時のボランティアセンター、避難所候補として体育センターが検討されると考える。(改善センター、やくし苑も拠点となることもあり)そのことから、今後体育センターの空調設備を整える必要があるように思う。

- ・総合発展計画の実行状況を見ながら共に考えていきたい。